

平成26年度第4回「墨田区子ども・子育て会議」・
「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」議事要旨

日時：平成26年8月8日（金）午後6時35分～8時30分
会場：すみだリバーサイドホール（イベントホール）

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 各ワーキンググループの開催状況について	資料 1
(2) 乳幼児ワーキンググループの検討状況と検討内容について	資料 2～8
(3) 学齢ワーキンググループの検討状況について	資料 9・10
(4) 新制度の利用の流れについて	資料 11
(5)(仮称)墨田区子ども・子育て支援事業計画と次世代育成支援後期行動計画について	資料 12～15
(6) その他 ・新制度の周知等について	

3 次回開催予定

日 時：平成26年9月30日（火）午後6時30分～8時30分

会 場：すみだリバーサイドホール（イベントホール）

主な議題：(仮称)墨田区子ども・子育て支援事業計画の骨子案について

4 閉会

配布資料

- 資料 1 平成26年度第3回墨田区子ども・子育て会議（6月30日）以降におけるワーキンググループの開催状況及び今後の予定
- 資料 2 保育の必要性の認定について
- 資料 3 私立幼稚園の子ども・子育て支援新制度への移行に関する意向調査結果
- 資料 4 (仮称)墨田区子ども・子育て支援事業計画に係る緊急調査の回答結果について
- 資料 5 量の見込みと確保策の検討（量の見込みの補正検討）＜教育・保育＞ 未確定
- 資料 6 市町村子ども・子育て支援事業計画の作成に関する基本的記載事項（必須記載事項）
【国の資料抜粋】
- 資料 7 教育・保育の確保イメージ
- 資料 8 量の見込みと確保策の検討（量の見込みの補正検討）＜一時預かり・病児・病後児保育事業＞ 未確定

- 資料 9 放課後児童健全育成事業に関する「量の見込み」に関する調査の集計結果について（情報提供）
- 資料 10 量の見込みと確保策の検討（量の見込みの補正検討）＜学童クラブ＞ 未確定
- 資料 11 新制度に移行した場合の各施設等の状況等について ほか
- 資料 12 墨田区次世代育成支援後期行動計画施策の体系ほか
- 資料 13 次世代育成支援対策推進法に基づく「行動計画策定指針」について（地域行動計画関係部分）
- 資料 14 墨田区次世代育成支援後期行動計画（施策の体系）及び子ども・子育て支援事業計画構成
- 資料 15 墨田区子ども・子育て支援事業計画（構成案）
- 参 考 都内の保育サービスの状況について

出席者(敬称略)

委員

- 大豆生田 啓友（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授）
- 野原 健治（興望館館長）
- 高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授）
- 長田 朋久（横川さくら保育園長）
- 西島 由美（にしじま小児科院長）
- 杉浦 浄澄（江東学園幼稚園副園長）
- 服部 榮（社会福祉法人 雲柱社理事長）
- 野口 悦子（主任児童委員）
- 松芳 保（小学校 PTA 協議会会長）
- 内田 淳（青少年委員協議会委員）
- 森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）
- 小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）
- 金子 里美（NTT 労働組合東京総支部執行委員）
- 佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）
- 賀川 祐二（NPO 法人 病児保育を作る会代表理事）
- 貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）
- 佐藤 摩耶子（公募）
- 荘司 美幸（公募）
- 多胡 晴子（公募）
- 福田 三加代（公募）
- 須藤 太郎（八広小学校長）
- 青塚 史子（太平保育園長）

< 欠席委員 >

財津 亜紀子（文花子育てひろば施設長）
飯田 昌弘（中学校 PTA 連合会会長）
本多 美絵子（両国幼稚園副園長）
徳野 奈穂子（公募）
荒木 尚子（緑幼稚園長）
菊本 和仁（桜堤中学校長）

< 傍聴 >

4 名（男性 2 名、女性 2 名）

管理職出席者

大滝 信一（福祉保健部長）、関口 芳正（子ども・子育て支援担当部長）、中橋 猛（保健衛生担当部長）、石井 秀和（教育委員会事務局次長）、小倉 孝弘（子育て支援課長）、鈴木 一郎（子ども課長）、村田 里美（子育て支援総合センター館長）

事務局出席者（検討チーム含む）

浦辺・井場・松本・遠藤・田村・酒井・杉崎・長山・柿畑・坂田・高橋・黒岩・水野

事務局（株）地域総合計画研究所

大鹿・佐々木

1 開会

会長	これより開催する。
事務局	委員の出席状況について、現在の時点で28名の内、20名が出席し定足数を満たしている ので会議は有効に成立している。傍聴者の出席、記録用の写真撮影と録音を了承願いたい。 また、第3回目の会議記録を委員に配布し、特段、修正等の意見がなかったため、議事録 として確定している。

2 議題

(1) 各ワーキンググループの開催状況について

事務局	(資料1について説明)
会長	開催状況についてはよろしいか (特に意見なし)

(2) 乳幼児ワーキンググループの検討状況と検討内容について

委員	7月15日と29日に乳幼児ワーキンググループ(以下、WG)を開催した。詳細については事務局より説明願いたい。
事務局	(資料2・資料3・資料4について説明)
会長	質問や意見はあるか。(特に意見なし) 意見がなければ、量の見込みについて説明願いたい。
事務局 (地域研)	(資料5・資料7・資料8について説明)
会長	一時預かり事業や病児病後児保育事業は、実績値を比べると量が多いが、計画に盛り込 こむということによいか。
事務局	供給可能な範囲と、実際にどれくらいのニーズがあるかを勘案中であり、場合によつて は補正を加え、今後の供給について検討している。

(3) 学齢ワーキンググループの検討状況について

事務局 (地域研)	(資料9・10について説明)
委員	学齢WGでは、学童クラブの運営基準について、条例は国基準とするが、職員の配置は ガイドラインによって質を確保していくことを確認した。また、学童クラブと児童館につい て、詳細に検討する必要があることを提案し、次世代育成支援計画についても10月までに 案を作成する必要があることから、専門委員会を設置して検討することが承認された。専門 委員会での検討結果を学齢WGで承認し、この会議にかけることとしている。
委員	5歳児の調査結果と実際の小学生の利用状況の乖離が大きい。乖離が生じる理由につい ての調査はないか。学童クラブに入れなかったために仕事を辞めたという保護者がたくさん

	いたとすると、その数を用いて補正を行うのはどうか。
事務局	<p>そのような調査は行っていない。以前、保育所から学童クラブを希望された割合を調べたところ 80%であり、ここで用いている 80%という数字は問題ないと考えられる。</p> <p>また、保育所に行っていた子どもが、小学校に行ったら学童クラブに申し込まない理由については、小学生になって安心できることや、パートタイム労働が多いために下校時に対応が可能なためと考えられる。</p> <p>80%の数字は懸念されるような数値ではないと捉えている。</p>
委員	学童クラブの現状で、高学年は 23 名となっているが、墨田区において高学年で学童クラブを利用している子どもが 23 名ということか。それに対し、高学年の量の見込みが多く出ているが、整備すればこれくらいのニーズがあるということか。
事務局	墨田区の学童クラブは、基本的に小学 1～3 年生を対象としており、高学年は区長が特別に認めた者となっているため、実績値は少ない。高学年の利用の場合、実際には塾などに行く子どもが多い。5 歳児との乖離では、高学年になっても引き続き見てもらった方が安心だということから、ニーズが出ていると思われるが、実際に高学年になると自分で過ごしていける状況になるため、こうした乖離が生まれるのではないか。
委員	塾に行ける子どもは良いが、実際に行けない子どももいる。預ける場所があれば預けたいというニーズがあるのではないかと思う。地域で子どものことをみることができるといった観点も入れて、予測値を立ててほしい。量の見込みは現状より多く出ているが、実際の運用面や内容についても今後、検討する必要があるのではないか。
委員	高学年の量の見込みは、保護者が単に入れたいとする数値だろう。実際に高学年になると、保護者が入れたいと考えていても、子どもは学童クラブに行かない。ただし、学童クラブという形ではなく、高学年の居場所ということで別の形では必要だろう。学童クラブにこれくらいの量は不要だろう。
委員	実際に 6 年生までの学童クラブをやっているところだと、3 年生くらいまでは来るが、それ以降の学年は辞める子どもが多い。高学年の居場所については、児童館との二重の取組で解決できるのではないかと考えている。

(4) 新制度の利用の流れについて

事務局	(資料 11 について説明)
委員	新制度による申し込みの時期は確定しているか。
事務局	私立幼稚園で新制度に入らない幼稚園と、制度に入る幼稚園では、時期にずれが生じる可能性がある。私立保育園と区立保育園は、例年と同じ時期の募集を考えている。
会長	そのことによる影響はないか。
事務局	リーフレットやホームページなどによる周知や、場合によっては説明会等を検討している。
委員	区立幼稚園は利用料が決まっているが、新制度になると変更となるため、混乱が生じるのではないか。また、資料の 2 ページ目で「区」は入っていないし、「教育を希望される場合」といった記載で配慮がほしいと感じるが、どこで作られたものか。
事務局	新制度による利用料について、現在、教育委員会で検討中であり、まだ決まっていない。

	資料は国が作成した「なるほど BOOK」のため、「区」が入っていない。
会長	「教育」という言葉は、学校教育法上の「教育」であり、それ以外を「保育」としているが、保育所に教育がないということではなく、教育の機能はあるという考え方である。この使い方には議論があったところだが、説明はこうした形で行われることになる。
委員	説明会などには行かずに申込み当日を迎え、混乱が生まれるケースが多いと予想されるが、これに対処するため、前向きに考えていきたい。また、説明会とすると、平日の昼間だと働いている保護者は行けないし、難しそうに捉えられて来ない人が出てくるのではないか。
委員	ダイレクトメールは必ず見るため、説明会を行うよりも効果はあるのではないか。検討してほしい。
会長	周知の方法は検討願いたい。

(5) (仮称) 墨田区子ども・子育て支援事業計画と次世代育成支援後期行動計画について

事務局	(資料 12・資料 13・資料 14・資料 15 について説明)
委員	次世代育成支援行動計画と子ども・子育て支援事業計画を、セットの形で計画とするという提案でよいか。
事務局	2 つをセットにして計画を作成する案である。

(6) その他

事務局	新制度の周知について、9 月 21 日号の区の広報において、4 ページにわたって新制度の特集号を掲載する予定である。また、新制度のパンフレットを区で作成し、9 月下旬に完成する予定でいる。それに伴い、入園手続きの説明会も行っていく予定でいる。ホームページも強化し、新制度に特化して分かりやすく作成する予定でいる。
会長	何か意見はあるか。(特に意見なし)

3 次回開催予定

事務局	今後、乳幼児 WG と学齢 WG の開催は決まっているが、第 5 回の会議日程については調整がついていない。9 月下旬頃に予定しているが、決定次第、委員に連絡したい。
会長	以上で、閉会とする。

以上